

「健康長寿笑顔のまち・京都推進プラン」（仮称）骨子案に対する市民の皆様からの御意見・御提言と本市の考え方

1 実施期間

平成30年1月10日（水）～平成30年2月9日（金）

2 応募方法

郵送，FAX又は電子メールなど

3 応募結果の概要

応募者数 298人

御意見・御提言数 797件

(1) 性別人数

	男性	女性	無回答	合計
応募者数（人）	113	168	17	298
構成比（％）	37.9	56.4	5.7	100.0

(2) 年代別人数

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答	合計
応募者数（人）	54	69	44	43	35	35	9	2	7	298
構成比（％）	18.1	23.1	14.8	14.4	11.8	11.8	3.0	0.7	2.3	100.0

(3) 京都市在住・在勤別人数

	京都市在住	その他	無回答	合計
応募者数（人）	212	78	8	298
構成比（％）	71.1	26.2	2.7	100.0

(4) 項目別御意見・御提言数

項 目		御意見・御提言数
1	基本理念について	1 9 6
2	取組方針について	1 4 7
3	そのほかの全体のことについて	1 5 7
4	取組方針 2（1）京都らしいライフスタイルへの転換を促進することによる健康づくり	8 2
5	取組方針 2（2）地域や人とのつながりの中で進める健康づくり	6 5
	①地域や民間団体の自主的な健康づくりの取組の推進	1 7
	②関係機関等との連携による健康づくりの推進	4 6
	③社会参加の推進と地域共生社会の実現に向けた取組	2
6	取組方針 2（3）健康づくりに取り組める環境の整備	9 8
	①だれもが健康づくりに取り組める仕組みづくり	1 2
	②正しい健康情報の普及・啓発と生活習慣の確立・改善に向けた支援	3 6
	③心身の状態に応じた健康づくりの支援	2 4
	④「望まない受動喫煙」対策による健康的な生活環境づくり	1 1
	⑤身近な場所で健康診査等を受けられる環境づくり	1 5
7	その他	5 2

＜参考＞以下の３項目の設問を設け、市民意見募集を実施。

- ① 骨子案では、基本理念として、「京都ならではの地域力・文化力の強みを活かした健康づくりを市民ぐるみで推進」することを掲げました。この点について、どのようなお考えをおもちですか。
- ② また、取組方針として、すべての市民の皆様が、「地域の人と人とのつながりの中で」「笑顔で主体的に楽しみながら健康づくりに取り組む」ことを掲げました。この点について、どのようなお考えをおもちですか。
- ③ 骨子案全体を御覧になったの御意見や、骨子案に掲げた各取組に対しての御提案等があればお聞かせください。

4 主な意見の内容と本市の考え方

別紙のとおり

「健康長寿笑顔のまち・京都推進プラン」(仮称)骨子案に関する市民の皆様への主な御意見と御提言に係る本市の考え方<代表例>

1 基本理念について(196件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	基本理念として賛成。 京都ならではの取組を推進してほしい。	132	基本理念に掲げる京都ならではの地域力・文化力の強みを活かした健康づくりを市民ぐるみで推進してまいります。
2	京都ならではの文化力と健康づくりの結びつきを具体的に示してほしい。文化力の意味は。	44	「京都の文化力」や「京都ならではの」というのは、身近にある文化財や芸術、衣食住、地域の絆など京都の暮らしの中に息づく文化のことや、本市が推進している健康にも環境にもやさしいライフスタイルのことを言います。 例えば、休みの日に出かけて、京都が誇る寺社仏閣などの文化遺産を歩いて楽しんだり、京都に根付く自治会・町内会等を中心に行われる地域行事などの活動に参加することで、体を動かし、適度な疲労によりしっかりと睡眠が取れる。これらが体とこころの健康づくりに繋がります。 また、人とのつながりを持つことも認知機能の維持向上など健康づくりにつながるものです。 京都の日常生活のなかで取り組む健康づくりが「京都ならではの健康づくり」であると考えています。 健康づくりとの結びつきを分かりやすくするよう、本冊子に説明を加えました。(P13)
3	基本理念は覚えやすい内容にしてほしい。 市民に伝わりやすい表現、キャッチフレーズを検討すべき。	4	健康寿命の延伸の伝わりやすい表現、キャッチフレーズについては、健康長寿のまち・京都市民会議(伝え方検討部会)等において、市民の皆様に分かりやすい内容を検討してまいります。
4	基本理念にある、「地域力・文化力」がない方がすっきりして良いと思う。「京都の強みを活かした～」でも良いのでは。	3	本計画では、健康づくりの基本となる生活習慣の要素に加え、「地域コミュニティ」の中での健康づくり、京都の「文化」の中で取り組む健康づくりなど、生活習慣を変えるきっかけとして京都らしいライフスタイルへの転換を促進することによる健康づくりを推進していくことから、基本理念として、「京都ならではの地域力・文化力の強みを活かした健康づくりを市民ぐるみで推進」することを掲げました。 京都の強みをより明確にするため、地域力・文化力を加えています。(P11)
5	健康寿命の他都市比較を載せ、全国一番や健康寿命世界一を掲げてはどうか。またはスローガンとして人生100年を掲げてみては。	3	健康寿命の年齢については、現在、国において算出方法が検討されており、示された時には、お示しいたします。(P11) 健康寿命の延伸に向けたスローガンについては、健康長寿のまち・京都市民会議(伝え方部会)等において検討しているところであり、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
6	「健康長寿のまち・京都」について「健康長寿笑顔のまち・京都」を目指す姿としてはどうか。	3	「笑顔」はご意見のとおり大切な視点であると考えております。 本プランにおいては、基本理念に笑顔でいきいきと健やかな「健康長寿のまち・京都」をみんなで実現しますとしており、目指す姿としております。(P11)
7	笑顔、いきいきと、健やかななど似たような言葉が並んでいるので、もっとシンプルにしてほしい。	2	健康づくりは、毎日の生活の中で、「笑顔」で楽しみながら続けていくことが重要であり、健康づくりにより市民の皆様が毎日を「いきいき」と「健やかに」を過ごす様子を伝えたいと考え、「笑顔」、「いきいき」、「健やか」という表現を使っております。(P11)
8	健康寿命の算出方法が確定すれば、数値目標等を定めるのか。	2	健康寿命については、国において算出方法等について、検討が行われているところです。今後、算出方法等が示された際には、本市の数値を明示するとともに、数値目標等の設定について健康長寿のまち・京都市民会議で議論してまいります。(P11)

9	市民ぐるみで推進ではなく、身近なことから健康づくりという表現にできないのか。	1	市民の皆様一人ひとりが、身近なところから自身に合った健康づくりに取り組むことが重要であります。一人ひとりの取組が市民ぐるみの取組に繋がるものと考えております。 取組方針では、京都のまちの日常生活にある地域や人とのつながりの中で楽しみながら健康づくりに取り組んでいくことを掲げており、身近なことから健康づくりを推進するという観点を盛り込んでおります。
10	健康長寿のまち・京都推進プロジェクトで言っていることとこの基本理念で言っていることは同じことなのか。	1	基本理念にある内容は、健康長寿のまち・京都市民会議等の取組と共通した考え方です。
11	基本理念は賛成だが、5年の計画期間で達成できますか。	1	毎年、京都市民健康づくり推進会議で進捗管理を行い、達成を目指します。

2 取組方針について(147件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	取組方針内容について賛成。	108	市民の皆様が、地域の人と人とのつながりの中で笑顔で主体的に楽しみながら健康づくりに取り組める環境づくりを推進してまいります。
2	取組方針に基づいた具体的な取組を示してほしい。取組方針1と2の関係を図示したほうが分かりやすい。 市民の健康づくりを進めたい気持ちが伝わり、方向性も良いと思うので、どう進めていくかが分かれば良い。	11	市民の皆様とともに地域での健康づくりの輪を広げ、本プランに掲げる基本理念を実現するため、どのように進めていくか、本冊子ではより具体的な取組を挙げました。 取組方針1と2の関係は、分かりやすいよう図を加えました。(P12)
3	笑顔で取り組める内容を盛り込んでほしい。 笑うことが健康につながると感じるので、笑顔が広がる取組を推進してほしい。	9	笑うことは、体やこころの健康づくりに繋がります。また、健康づくりは、毎日の生活の中で、楽しみながら続けていくことが重要だと考え、本プランの名称や文章に「笑顔」という言葉を入れています。 例えば、いきいきポイントやいきいきアプリ等を活用し、仲間と一緒に楽しんで取り組める健康づくりに取り組んでいただくなど、健康づくりの輪を広げてまいります。 保健福祉センターにおいては、地域に出向いて健康づくり事業を実施しており、より楽しみながら健康づくりに取り組んでいただけるようなものにしていきたいと考えています。
4	地域とのつながりより、食・運動・歯など健康づくりの基本にふれないのか。	4	食・運動・歯など生活習慣の改善は健康づくりに不可欠な要素です。取組方針1及び取組方針2の中に、身体活動・運動、栄養・食生活など生活習慣を構成する要素(分野)に関する内容を盛り込んでおります。 また分野ごとの取組を分かりやすくするため、分野ごとに再掲しました。(P33～P45)
5	規則正しい生活習慣が健康づくりの基本であると思う。取組方針は、こういった観点を土台にしているのか。	4	正しい生活習慣を身につけることは健康づくりの基本であることから、取組方針2に掲げているとおり、生活習慣について、正しい健康情報を提供し、市民の皆様の生活習慣の確立や健康増進を支援します。(P11)
6	自分の健康は自分で守るという主観的な趣旨も重要だと思う。	4	御意見について、取組方針に記載のとおり、「健康づくりは市民一人ひとりが正しい知識を持ち、自ら生活習慣を変えなければ効果を上げることができません。」と掲載させていただいております。(P11) 本市では、市民の皆様が主体的に健康づくりに取り組んでいただけるよう、関係機関・団体等と連携して環境づくりに取り組んでまいります。

7	取組方針に対しての行政の役割は。また、方針の達成状況をどうやって確認するのか。行政はその二つをつなげる役割や市民の行動変容を促す取組を行うことが必要である。	3	健康づくりは、市民の皆様一人ひとりの状態に応じて主体的に取り組んでいただくことが重要ですが、それを支える環境づくりも重要であると考えております。 本市では、主に取組方針2に掲げる市民の健康づくりを支える環境づくりに取り組んでまいります プランに掲げる項目は、健康づくり推進会議において、進捗管理を行い、推進してまいります。 また、市民の皆様の健康づくりの取組状況を経年で把握するアンケート調査等も市民の健康づくりの取組状況を把握するための参考にしていきたいと考えております。(P13)
8	笑顔と楽しむは同義ではないか。	2	健康づくりは、毎日の生活の中で、笑顔で、楽しみながら健康づくりを続けていただくことが重要だと考え、盛り込みました。2つの言葉は同じ趣旨で使っています。
9	健康増進の観点を取組方針に入れないのか。	1	「本市の健康づくりに対する考え方」に記載しているとおり、がん、心疾患、糖尿病などの生活習慣病を予防するためだけでなく、健康を増進していくためにも、若い世代から、心身の状況などに応じて自分に合った正しい生活習慣の確立と健康づくりが大切です。そのため、健康づくりに重要となる生活習慣について、正しい健康情報を提供し、生活習慣の確立や健康増進を支援することを掲載しております。(P10, 20～21)
10	主体的にという表現を「自らが」「自身」「自発的に」などに変えてみてはどうか。	1	「自発的」は、自ら進んで行う、「主体的」は、自分の意志・判断に基づいて行動するという意味がありますが、健康づくりには、一人ひとりが正しい知識を持ち、自ら生活習慣を変えなければ効果が上がらないことを踏まえ、主体的という言葉を使っております。

3 そのほか全体のことについて(157件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	全体的に良い内容になっていると思う。	48	市民一人ひとりが笑顔で主体的に楽しみながら健康づくりに取り組むとともに、社会や地域全体で健康づくりに取り組んでいく環境づくりを目指し、本プランに掲げる取組を推進してまいります。
2	健康長寿のまち・京都市民会議と連携した取組を進めてほしい。健康づくりを様々な分野と連携させてほしい。市民と行政が連携し取組を推進してほしい。	26	市民団体、関係機関、民間企業等が参画する「健康長寿のまち・京都市民会議」を中心に、本市と関係機関・団体等が連携し、京都の市民力・地域力を結集させ、社会や地域全体で市民が主役の健康づくりを支える環境づくりを推進しています。 さらに区・支所においては、関係機関や団体等と連携して、地域の皆様の自主的な健康づくりを支援する、健康づくり教室等を開催しています。
3	読みづらい。 全体として、取組内容が抽象的であり、行政が何に取り組むのかかわりにくくなっているため、プランの構成など図を入れたほうが良い。	22	本冊子では注釈を加えたり、図を入れる等分かりやすく工夫をしました。
4	文化を全面に押し出しているが、健康づくりの基本となる要素を入れてほしい。	10	健康づくりには生活習慣の改善が必要です。しかし、例えば、しっかり食べましょうといっても、食欲がないと食べることができません。 本プランでは、生活習慣の改善に加えて、生活習慣の改善に繋がる日常生活の行動(京都のまちを歩いて楽しみましょうなど)から促すことで、市民の皆様の健康づくりを推進しようと考えております。 本冊子では、健康づくりの基本となる生活習慣の観点の取組を進めるため分野別にも取りまとめをしました。(P33～P45)
5	数値目標を定めないのか。	6	今後、市民の皆様の健康づくりの取組状況を経年でアンケート調査し、結果を踏まえて、健康長寿のまち・京都市民会議等において、分かりやすく具体的な取組目標等の設定を検討してまいります。(P11)

6	健康づくりに関心のない人が親しみを持てるような取組を展開してほしい。市民のアンケート調査等により浸透状況を確認してほしい。	6	日常生活を楽しみながら健康づくりに取り組む視点を基本としつつ、人生の転機、働く世代など健康を意識しやすい時期へのアプローチ、保健福祉センターにおける地域での健康づくり事業など関心を持ってもらう取組を推進していきたいと考えています。 加えて、いきいきポイントやいきいきアプリ等を活用し、仲間と一緒に楽しんで取り組める健康づくりに取り組んでいただくなど、健康づくりに無関心な層も巻き込んで、健康づくりの輪を広げてまいります。(P16) 取組方針1に掲載しておりますとおり、市民の皆様の健康づくりの取組状況について経年でアンケート調査を実施し、健康づくりの浸透状況を把握してまいります。(P13)
7	現行プランの評価をしないのか。	4	「第2章 健康づくりの現状と課題」の「2 市民の健康に関する意識」において、健康づくりに関する意識調査に加え、食育及び歯科口腔保健に関する調査に関して追記し、内容を充実させました。その中で市民の健康状況の変化について掲載しています。(P5～8)
8	地域力・文化力が健康寿命の延伸に結びつくのか。健康寿命の延伸は健康に関するデータを分析して取組を進めていく必要がある。健康寿命の延伸を前面に示してほしい。	4	地域や人とのつながりを持つことや文化にふれることは、運動やリフレッシュにつながり、健康づくりのきっかけになるものです。 また、健康づくりは継続することが大切で、誰でもできる日常生活の中で、楽しみながら取り組むことも大切です。 市民向けの調査では、多くの方が健康づくりの必要性を認識していただいているにも関わらず、実際には取り組めていない方が多いのも現状としてあります。 このため、本プランでは、京都ならではの身近にある地域力や文化力を活用して、健康寿命の延伸に結びつけようと策定しました。(P13) 健康に関するデータ分析も健康づくりに効果的であると考えております。このため、本市においては、将来予想される保健医療データ等のビッグデータの活用を研究しています。(P18)
9	科学的な分析が足りていないように思う。	2	地域における健康づくり事業において、関連数値を分析し、地域診断を行い、健康課題に基づく事業展開に活用していくこと、今後民間や大学などの活力をいかし、保健医療データ等のビッグデータの活用など、健康づくりに有効な取組を研究していくことを掲載しております。(P18)
10	これまでの健康づくりプランにあった6分野の取組が少なくなっているが、重要度、優先度は低くなったのか。現在ある各指針をどう取り扱うのか。	2	生活習慣の基本となる栄養・食生活、歯と口の健康など6つの分野の取組もこれまでのプランと同様にまとめており、重要度、優先度は変わっておりません。(P33～P45) これまでの各指針は、プラン本冊子にまとめることで、計画として位置付け、一体的に取り組んでいきたいと考えております。
11	「健康長寿のまち・京都」が定着してきている中、あえて「笑顔」をプラン名に入れる必要はないのではないか。	2	プランにおいては、プランに基づく取組に基づき「健康長寿のまち・京都」を目指すことで、市民の皆様が笑顔でいきいきと健やかに過ごすことを願って「笑顔」を名称に加えました。「健康長寿のまち・京都」を目指すとともに市民の皆様が笑顔で過ごせるよう取組を進めてまいりたいと考えております。
12	プラン名称が高齢者を対象とした内容に感じる。全世代を対象に、市民ぐるみを推進するならばそれが分かるプラン名称にしてほしい。	2	サブタイトルとして、「全ての市民が健康づくりに取り組むまちづくりを目指して」を追加し、全ての世代の健康づくりのプランであることを分かりやすく伝えてまいります。
13	京都市の特徴的なプランを集めてきた感じで、一貫性がないように感じる。それぞれの局で多くのプランが作成されているので、それらの全体像を示してほしい。	2	本プランに掲げている関連プランは、健康づくりのきっかけとなる、ライフスタイルの転換につながるプランを掲げております。(例えば、歩くまち・京都では、歩くことは、取り組みやすい運動であり、健康づくりに繋がるなど)これらは、取組方針2(1)に説明とともに加えています。(P16～17) 本市では、様々なライフスタイルを転換する取り組みを進めており、ご自身にあった取り組みをしていただければ幸いです。

14	基本理念、取組方針、具体的内容を上手に連携して進めてほしい。	1	基本理念の下に、それを実現するための取組方針があり、それを具体化したものが、具体的な取組内容になっています。それらを連携して進める形としております。
15	「京都市民長寿すこやかプラン」「京(みやこ)地域福祉推進指針」等との関係性が分かりづらいです。プランが多すぎると困惑するので、一本化してはいいかがか。	1	すこやかプランとは、高齢者の健康づくり、地域福祉推進指針とは、地域共生社会の実現(地域で人とのつながりの中で取り組む健康づくり)に、つながっています。 本市の取組は多岐にわたっており、全体としては京都市基本計画を策定しておりますが、分野ごとには分野別計画を策定しております。
16	このプランは京都ならではの地域力・文化力の強みを生かしたとありますが、健康長寿のまち・京都市民会議の参画団体に地域力・文化力を専門とする団体が入っていないのはなぜか。	1	市民会議の参画団体には、地域関係団体や文化関係団体も入っていただいています。(P31)
17	市民が主役の健康づくりの「体をまもる」の項目をもう少し強調してはどうか。	1	取組方針2(3)⑤に掲げているとおり、身近な場所で健康診査等を受けられる環境づくりに取り組むことを掲げ、さらに健康診査の重要性について説明を追記し、本市が実施している主な健(検)診について掲載いたしました。(P26)
18	地域より文化を押せばよいと思う。	1	健康づくりの基本とされる、食べる、動く、休むなどの要素だけでなく、そのきっかけづくりも大切であると考えております。 毎日の生活の中で京都が誇る寺社仏閣などの文化遺産にふれること、自治会・町内会等の地縁団体を中心行われる地域行事や学区民体育祭などの取組に参加することも健康づくりにつながると考えています。
19	笑顔で楽しむ健康づくりを広めるためには、マスコミと連携することが良い。	1	いきいきポイント事業をはじめ、本市の様々な取組については、リビング京都に毎月掲載するなどマスコミを活用した取組を行っています。
20	いきいきポイントや地域支え合い活動創出コーディネーターなど、知らない単語が多く読みにくい。	1	本冊子では適宜、単語に説明をつける等市民の皆様に分かりやすい内容となるよう掲載しました。

4 取組方針2(1) 京都らしいライフスタイルへの転換を促進することによる健康づくり(82件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	地域との結びつきと健康づくりの関連を示してほしい。 自治会の加入率の低下など、地域のつながりが希薄なっているため、そういった内容を強調すべき。顔の見える関係など地域のつながりづくりを進めてほしい。	19	地域と健康づくりの関係について、例えば、地域の行事に参加することで、運動にもつながり、日中活動することで、しっかり睡眠をとることもつながります。 また、地域の人とつながることは、日常生活の安心(こころの健康)にもつながります。 地域のつながりが強い地域は、そこに暮らす人も健康であるという調査結果もあります。 本市では関係団体・機関等と連携して健康づくりを通じて、地域づくりにも取り組んでいきます。
2	人と人のつながりが希薄になっていると感じるが、人とのふれあいを拒む方もいるため、つながりを主軸においた取組が上手いのか。もう少し現実的な取組方針にしてもいいのではないかと。 人づきあいが苦手な人もいますので、その人に合った健康づくりという視点も必要では。	14	本プランは、今後、本市の健康づくりの目指すべき姿をまとめたもので、地域や人とのつながりの中で取り組む健康づくりを掲げています。 もちろん、人付き合いが苦手な方もいます。健康づくりは様々な形で、心身の状況などに応じて自分に合った健康づくりに取り組んでいただきたいと考えており、取組方針2(3)②に掲載しています。(P22)

5 取組方針2(2) 地域や人とのつながりの中で進める健康づくり

① 地域や民間団体の自主的な健康づくりの取組の推進(17件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	地域の人同士が交流できる交流会、食事会があれば良い。	4	地域の交流は健康づくりにつながります。ご意見の活動が自主的に行われるのが望ましい地域の姿のひとつだと考えます。 本市では、地域コミュニティの活性化や福祉分野では、社会参加の推進のため、市民向けボランティア講座の開催などによるボランティア活動の参加促進、地域支え合い活動創出コーディネーターの活動等を通じて創出された住民等による高齢者の様々なニーズに応える生活支援サービスが提供される地域づくりの推進に取り組んでおり、これらをプランに掲載しております。(P18, 20)

② 関係機関等との連携による健康づくりの推進(46件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	働く世代や学生が取り組める健康づくりを進めてほしい。市民団体、民間企業等と、学校が協働して地域につながるイベントが増えることで、若い世代が将来像をイメージしやすくなり、健康への関心も高くなると思う。また、働き世代の地域とのつながりも薄く感じるので、職場でのつながりなど作ってはどうか。	18	民間企業等と連携し、運動への関心を持ち、通勤や仕事、家事など日常生活の中で体を動かすことが実践できる運動や一駅歩くこと、通勤靴での通勤等を推奨するなどの取組を進めてまいります。(P19) いきいきポイントやいきいきアプリ等を活用するなど、仲間と一緒に楽しんで取り組める健康づくりに取り組み、職場の中で健康づくりの輪を広げていただきたいと考えています。(P16) また、本市では、子どもからお年寄りまで幅広い世代が交流しながら、一緒になって学び、考えることを目的とした多世代交流型イベントを実施しております。各区等においてもそれぞれの特色をいかしたイベントを開催しておりますので、それらを発信することで、健康づくりへの関心を高めてまいります。
2	大学と連携して地域のつながりを作ってはどうか。学生の力について触れてほしい。	2	学生の皆様と一緒に大学との協働による健康づくりを推進してまいりたいと考えていることから、大学と連携協定を締結するなど、大学と連携・協働し、健康づくり事業を推進することを掲載いたしました。(P19)

3	ボランティア活動だけでなく、起業家への支援を行ってはどうか。	1	医療、福祉現場と市内のものづくり企業をつなぐコーディネート活動等により、健康づくりに資する新たな製品・サービスの開発・事業化するなど、民間企業等と連携・協働による健康づくり事業を推進することを掲載いたしました。(P19)
4	外出することが億劫になる人もいる。それがフレイルに繋がるので、地域へ参加できるようなプログラムがあれば良いと思う。	1	本プランでは、フレイル対策について推進していくこととしております。 フレイル対策には、栄養、運動、社会参加への取組が効果的であることから、高齢期の健康づくりでは、地域介護予防推進センターにおけるフレイル対策を含む介護予防の推進を掲載しております。(P18, 22)
5	国でもスニーカー通勤を推奨したりしている。京都市も様々な手法を健康づくりに関連させてほしい。	1	自由な時間が少ない働き・子育て世代が運動への関心を持ち、通勤や仕事、家事など日常生活の中で体を動かすことが実践できる運動や一駅歩くこと、運動靴での通勤等を推奨する取組などを掲載いたしました。(P19)

③ 社会参加の推進と地域共生社会の実現に向けた取組(2件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	退職後からでも始められる健康づくり事業を普及啓発してほしい。	2	就職や退職などの人生における転換期では、環境の変化による生活習慣の乱れが起こることがあるので、人生の転換期における注意点を追記いたしました。(P23)

6 健康づくりに取り組める環境の整備

① だれもが健康づくりに取り組めるしくみづくり(12件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	近所には体を動かせる場所がないので、場所がなくてもできる健康づくりを作してほしい。	5	本市では、京ロコステップ+10など室内で気軽にできる健康づくりのメニューを紹介しています。 また、歩くことは健康づくりに有効であり、場所がなくても気軽に取り組める運動のひとつです。 本市では、地域における健康づくり事業等を通じて様々な運動をはじめ健康づくりの取組の普及に努めております。

② 正しい健康情報の普及・啓発と生活習慣の確立・改善に向けた支援(36件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	健康づくりに関する知識や取り組める場所等の情報発信を行政がしっかりやってほしい。 より多くの市民に広めていけるよう、京都市公式のSNSを活用するなど、周知にももっと力を入れていただきたい。また子どものときから健康づくりは続いていくということを7ページのようなものをつかって多くの人へ発信してほしい。	10	「健康長寿のまち・京都」ポータルサイトではSNSを活用し、いきいきアプリ、いきいき通信、リビング京都などでは、情報発信に取り組んでいるところです。 今後、創設を予定している、みんなの健康づくり表彰制度(仮称)では皆様の健康づくりの取組を表彰したり、それを発信することで、一緒に健康づくりの輪を広げてまいります。(P13)

③ 心身の状態に応じた健康づくりの支援(24件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	ストレス社会におけるこころの健康について触れてほしい。自殺対策、ストレス、うつ、睡眠不足などこころの健康に関する内容も大事だと思う。	3	地域とのつながりの中で、自治会やボランティア活動に取り組む、文化にふれ、スポーツを楽しむことは体のみならず、と心の健康長寿につながると考えております。そういったことを記載するとともに、自殺対策等こころの健康に関する内容を全体的に追記しました。
2	人生の転換期における健康づくりを進めてほしい。	1	大学などへの進学、就職、退職など人生の転換期における健康づくりの留意点を掲載いたしました。(P23)
3	運動がしたいので、気軽に運動できる施設を増やして欲しいが、日中は仕事をしており、夜間に利用できる施設を作って欲しい。	1	自由な時間が少ない働く・子育て世代が、運動への関心を持ち、通勤や仕事、家事など日常生活の中で体を動かすことが実践できる運動や一駅歩くこと、運動靴での通勤等を推奨することを掲載いたしました。(P19)

④ 「望まない受動喫煙」対策による健康的な生活環境づくり(12件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	受動喫煙防止対策を進めてほしい。	2	健康増進法の一部改正内容については完全実施(100%)していきます。また、法で義務化される内容にとどまらず、本市独自の取組として、あらゆる場面での受動喫煙防止に向けた取組を推進します。(既に平成29年度中から取り組んでいます。) 本市独自の取組として、受動喫煙による健康影響が大きい子ども、患者の方など特に配慮が人に対象を拡大し、関係団体等の御協力の下、受動喫煙防止対策の取組を進めることなど、あらゆる場面での受動喫煙を防止するため、様々な取組を掲載しております。(P24)
2	喫煙可能な飲食店の従業員などは、かなりの健康被害を受けているのではないかと思いますので、煙の濃度が高い場所から取り組んでみてはいかがでしょうか。	1	
3	コンビニの前での喫煙が目立つので、そういった場所への働きかけをしてほしい。	1	
4	京都市においても独自で受動喫煙防止対策について条例を策定するなど、厳しく取り締まってほしい。	1	
5	加熱式たばこも従来のたばこを同じ位置付けにして対策をお願いしたい。	1	加熱式たばこについては、厚生労働省が作成した「喫煙の健康影響に関する検討会報告書」(2016年8月)において「喫煙者及び受動喫煙者の健康へ悪影響を及ぼす可能性が依然として大きい」とされていることや、その煙にニコチン等の有害物質が含まれていることは明らかである一方、現時点の科学的知見では、受動喫煙による健康影響が明らかでないこと(2018年2月)等を踏まえ、本プランでは、加熱式たばこも、従来からのたばこに準じた取扱いとします。(P24)

6	スモーカーズフェイスの周知を施策に加えられないか。 (スモーカーズフェイス:喫煙は容貌に破壊的悪影響を与え、本プランが目指す“笑顔”を損なうこと、つまり老化を促進し、スモーカーズフェイスと呼ばれる。) ニコチン依存症患者の禁煙推進を施策に加えてほしい。	1	スモーカーズフェイスについて、本市が行う防煙セミナーにおいて喫煙している場合としていない場合の顔写真を使って、喫煙が健康に悪影響を及ぼす啓発も行っております。 喫煙者及び喫煙場所での啓発について、コンビニ店頭などの喫煙スペースにおける受動喫煙を防ぐため、人前でたばこを吸わないようにするなど、喫煙マナーの向上を啓発するためのステッカーの貼付依頼を行っております。
7	「喫煙マナー」の啓発を強化してほしい。 例えば、コンビニやコインパーキング内での喫煙等させないよう掲示をさせるなど要請してほしい。	1	
8	禁煙の取組を進めてほしい。とりわけ小規模飲食店での全面禁煙が大事である。	1	本市独自の取組として、本年1月から3月にかけて、市内飲食店7,000店舗へ郵送及び1,000店舗へ訪問による屋内禁煙への協力依頼等を行っております。
9	路上喫煙やごみのポイ捨てが目立つので、それらに対する対策の視点を入れてほしい	1	京都市では平成19年6月に「京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例」を施行し、市内全域で路上喫煙を禁止しています。特に通行量が多く、やけど等の危険性の高い地域については、「過料徴収区域」(路上喫煙等禁止区域)に指定し、路上喫煙等監視指導員が毎日巡回し、また、路上喫煙者を発見した場合、千円の過料処分を行っています。当該区域以外でも路上喫煙禁止を周知するステッカー等を掲出したり、街頭啓発を行うことなどにより、条例の周知・啓発に努めています。プランにも「望まない受動喫煙」対策による健康的な生活環境づくりとして対策を盛り込んでおります。 また、ごみを「捨てない」意識づくり、ごみを「捨てにくい」環境づくり、ごみを「捨てさせない」仕組みづくりが必要であり、ポイ捨て防止の啓発看板の設置やパトロールの他、美化活動に取り組む地域団体への支援等市民、事業者と一体となって取組を進めてまいります。(P24)
9	煙草の販売禁止、自動販売機の撤去等してはどうか。	1	法律において、たばこの販売が認められているため、京都市では御意見に対しての対応をお答えする立場ではございません。 しかし、本市においても受動喫煙防止対策は、重点的に取り組んでいく必要があるため、健康増進法の一部改正内容については完全実施(100%)していきます。また、法で義務化される内容にとどまらず、本市独自の取組として、あらゆる場面での受動喫煙防止に向けた取組を推進します。(既に平成29年度中から取り組んでいます。) 本市独自の取組として、受動喫煙による健康影響が大きい子ども、患者の方など特に配慮が人に対象を拡大し、関係団体等の御協力の下、受動喫煙防止対策の取組を進めることなど、あらゆる場面での受動喫煙を防止するため、様々な取組を掲載しております。

⑤ 身近な場所で健康診査等を受けられる環境づくり(15件)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	純粋な医療の取組は不要か。不要なら、運動などもっと具体的にどういうことをすればよいかしっかり明示してほしい。	6	本プランは、健康づくりに係るプランであるため、生活習慣病の予防や健康増進に係る取り組みを掲載しています。 運動をはじめ生活習慣にかかわる分野別取組については、本冊子において、まとめました。(P33～P45)
2	市が実施してる健診の情報を載せてほしい。	5	自身の健康状態について定期的に把握するためにも、定期的な健康診断を受けることはとても必要なことであります。本冊子では、取組方針2(3)⑤に掲げているとおり、身近な場所で健康診査等を受けられる環境づくりに取り組むことを掲げ、さらに健康診査の重要性について説明を追記し、本市が実施している主な健(検)診について掲載いたしました。(P26)

No.	御意見・御提言要旨	件数	本市の考え方
1	健康ポイントを電子マネーなど使い勝手が良いものと交換できるような仕組みにしてほしい。抽選でなく、賞品ごとにポイント付けたりしてはどうか。	7	いきいきポイント事業の景品については、取組にご理解いただいた企業、関係団体等の皆様から無償提供をいただいているものです。 広く健康づくりに取り組んでいただくため、自主申告制度としている事業の性質上、直接金銭に関わるものの提供は難しい面がありますが、市民の皆様が、取り組みのきっかけになるような魅力あるものにしてまいります。
2	健康寿命、平均寿命の説明が必要。	1	御意見を踏まえまして、内容の説明について追記いたしました。 (P11)
3	健康長寿のまち・京都の説明が必要。	1	